

洞爺湖有珠山ジオパーク

ユネスコ世界ジオパークに 2年間の条件付きで再認定

■問合せ ジオパーク推進課 (☎74-3015)

ジオパークには厳しい認定基準と審査があります

全てのジオパークは、ジオパークとしてのレベルを保つために、日本ジオパークとユネスコ世界ジオパークそれぞれから4年に1度再認定審査を義務付けられています。

洞爺湖有珠山ジオパークは、昨年7月24日から27日の4日間、ユネスコジオパーク計画審査グループから派遣された2名の審査員による再認定審査が行われ、地質的な見どころをきちんと保全しているか、ジオパークとして活動を続けているかなどをチェックされました。

ユネスコ世界ジオパークの再認定審査の特徴と結果

洞爺湖有珠山ジオパークが、世界ジオパークに認定されたのは2009年。その6年後の2015年に、世界ジオパークはユネスコ(国

際連合教育科学文化機関)の正式事業となりました。これに伴い認定基準が厳格化され、見どころの保全や住民の活動以外に、ユネスコの方針に合わせた活動が一層求められるようになりました。これらの基準を満たせば4年間ジオパークとして認定されますが、洞爺湖有珠山ジオパークは再認定審査の結果、「2年間の条件付き」での認定となりました。これから2年の間に、指摘された項目を改善しなければ、ユネスコ世界ジオパークの認定は取り消されることになります。

今後の取り組み

今後、指摘された項目の解決を図り、この地域の特徴的な地域資源を活かし、地域の皆さんや観光客にとって、より魅力的な地域になるように取り組んでいく予定です。



平成29年7月の審査の様子

要約

指摘された主な項目

◆運営体制

地球科学専門の常勤職員を雇用すること。

◆視認性

主要な入口の道路などにジオパークに入ったことがわかるように看板などを設置すること。

◆保全

重要な見どころが木や草が茂ることで破壊されないよう、保全方法を明確にすること。

◆施設

関連施設での世界ジオパークの情報を増やすこと。地球の活動に関する情報と火山の役割、自然・文化・無形遺産と大地との関連が訪問者に伝わるように改善すること。

洞爺湖有珠山ジオパークって どんなところ？



2000年にできた火口（有くん火口）

ジオパークは「大地の公園」

「公園」といっても、人工的に作ったものではありません。地球の活動が感じられるような、特徴ある地域を指します。さらに、その上で育まれた自然や人の暮らしを大切に、後世に伝えようと努力している地域が「ジオパーク」に認定されます。伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町でつくる「洞爺湖有珠山ジオパーク」は、日本で初めて世界ジオパークに認定された地域です。

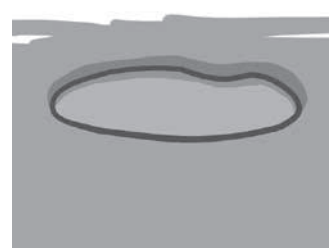
洞爺湖や有珠山は

どうやってできたの？

私たちが当たり前に見ている風景には、地球の活動にともなう長い「物語」が隠されています。

この地域では、このように火山活動が繰り返されてきました。

約11万年前、巨大噴火で洞爺湖ができた

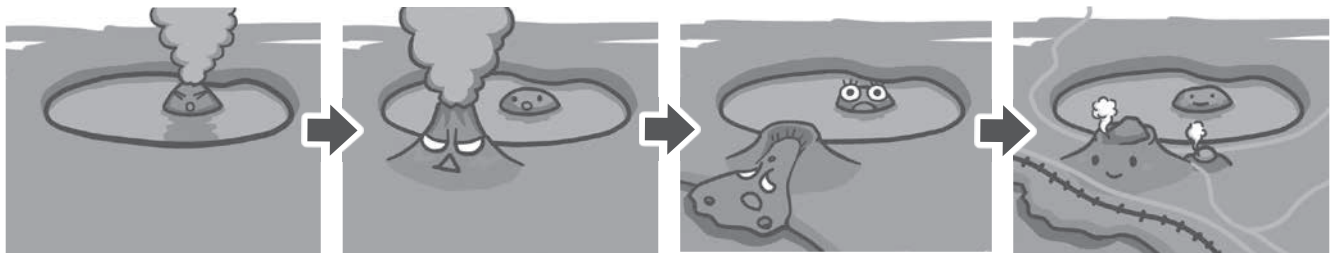


約5万年前、中島誕生

約2万年前、有珠山誕生

約1万年前、有珠山崩れる

昭和新山誕生



当時は氷期で、海岸線が今よりずっと沖側だった

洞爺湖有珠山ジオパークの **ここがスゴイ！**

ここがスゴイ！

1

たくさんの見どころ

火山や湖だけでなく、この地域には大地の特徴を活かして暮らしてきた人々の歴史、産業、文化があり、ジオパークはそれらも「見どころ」として紹介しています。



ここがスゴイ！

2

散策路



火山の迫力や、大地の物語を感じられる散策路があります。詳しく知りたい人向けには各コースを紹介する『ジオパークガイド』（200円）もあります。

火山の迫力や、大地の物語を感じられる散策路があります。詳しく知りたい人向けには各コースを紹介する『ジオパークガイド』（200円）もあります。

ここがスゴイ！

3

ガイドツアー

たくさんのガイド団体があり、それぞれ得意分野で案内活動をしています。幅広いジャンルの団体がたくさんあることも、洞爺湖有珠山地域の特徴です。



ここがスゴイ！

4

減災教育

活火山である有珠山との共生のために火山についての正しい知識や経験を伝える「洞爺湖有珠山マイスター」制度の運営や災害遺構の保全に努めています。



ここがスゴイ！

5

施設

火山、自然、縄文遺跡に関する展示学習施設のほか、地域内の道の駅などでもジオパークの紹介をしています。



ここがスゴイ！

6

大地の恵み

洞爺湖周辺に広がる日当たりの良い火砕流台地は食材の宝庫。ジオパークの「大地の恵み」として紹介しています。

